



○サテライトトカマク (JT-60SA) 製作の進展

欧州との協議では、欧州が調達する機器の調達取決め、日本への輸送に関する責任分担、トロイダル磁場コイルの最終位置合わせ方法などの議論が進展した。また、欧州が調達するクライオスタット胴部について、日本が調達する真空容器ポートの変更に合わせてCADモデルを作成し、製作を担当するスペイン CIEMAT に送付した。この構造案(図1)では、ポート位置だけでなく、リブ構造の簡略化、マンホール径など設計の進捗も反映されている。

日本が分担する調達については、引き続き、超伝導トロイダル磁場コイル(中心ソレノイドCS, 平衡磁場コイル

EF)の超伝導導体、真空容器トラス部、ダイバータ炭素繊維複合(CFC)材、ダイバータカセット、ダイバータターゲットに関する製作を進めるとともに、真空容器組立棟の建設及び真空容器トラス部の残部などの契約作業を進めた。前回報告(本誌8月号)からの主な進展としては、真空容器20度分の試作について、インボード直線部の内壁へのリブ溶接が終了するとともに(図2)外壁の連続プラグ溶接のみを残す段階まで進み、溶接後の歪取りした後の寸法測定でも溶接変形は小さく、修正プレスは不要とわかった。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)

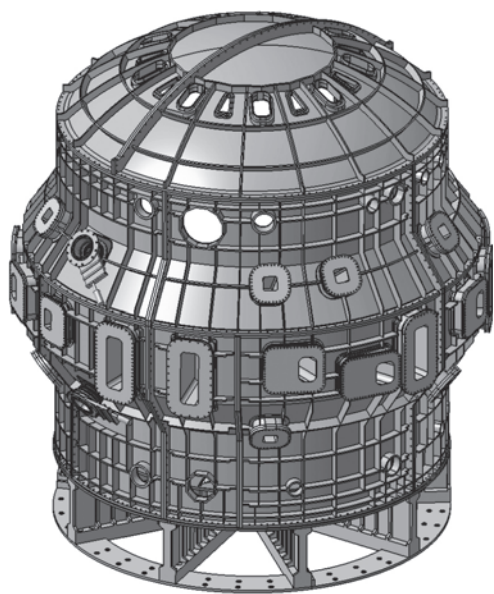


図1 クライオスタット全体図(ベース+胴部).

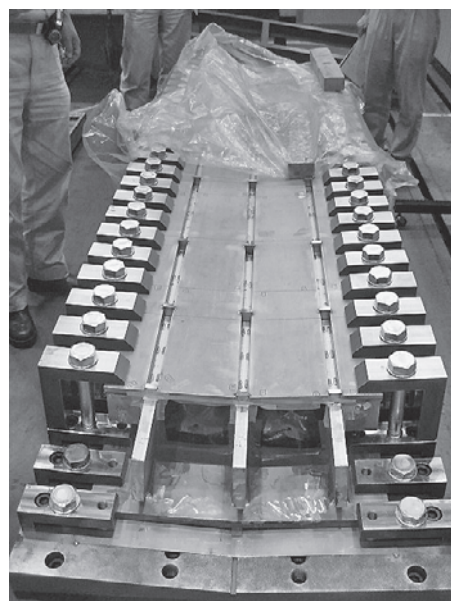


図2 試作した真空容器20度分のインボード直線部.